

■日程（この行程は各地の道路状況により多少時間に変更になる場合があります）

開催日	7月17日（月）海の日		区間	相川～真野（約15km）	
9:00	9:20	9:30	9:45	10:00	10:30
相川・佐渡奉行所前 出立式	相川一丁目	下戸 御番所橋	旧中山街道	キリシタン塚 休憩	沢根・城の下 休憩
11:30	12:30	14:00	15:00	16:00	
河原田諏訪町・諏訪神社 休憩と昼食		佐渡博物館	真野・商工会	真野新町・本陣山本家 到着式	

「御金荷の道」を歩く人々の中には、当時の衣装で歩かれる方もいます。往時の人々の想いを偲び、最寄りの箇所での見物・応援、一区間の飛び入り参加もお待ちしております。

■小雨決行、荒天の場合は中止となります

※判断がつかない場合は、事務局にお問い合わせください

■服装・持ち物

◎ 軽い昼食を主催者で用意します

○ スニーカー等歩きやすい靴

○ 飲みもの

こまめな水分補給が欠かせません。各自の責任において水筒などの飲料のご用意をお願いします。

○ 雨具

◆ 当時の衣装で歩きたい方は、事前に事務局までお申し出ください。

■参加費 無料

■参加申込 締切 7月10日（月）

〔（一社）佐渡を世界遺産にする会〕事務局までお願いします

TEL 0259-52-0013 FAX 0259-67-7166

Mail : kinnoshima@rainbow.plala.or.jp



佐渡の金銀はどのようにして江戸まで運ばれたのか

佐渡で産出された金銀の江戸への輸送路は、相川～小木、そして海路を挿み、出雲崎港に陸揚げされてから主要ルートである北国街道、さらに迫分宿（現在の軽井沢）から中山道（中仙道）を経て最終地江戸日本橋までを結ぶ「金の道」と呼ばれる。

佐渡金銀山が世界遺産登録を目指し、平成22年に暫定一覧表に登録され、現在ユネスコ提出の推薦書作成に全力を挙げて取り組んでいる。構成資産の学術的価値は関係者の高い評価を受けており、あとは地元佐渡、そして新潟全体の盛り上がり、全国民の関心度が勝負どころ、いわば最後の重要な追い込み段階に差し掛かっている。佐渡金銀山は、江戸幕府の財政を支え、1774（安永3）年には「馬150頭が金銀2百箱」を運んだ記録も残っている。それでは、佐渡で産出された金銀は実際にどのようにして幕府に納められたのか、輸送体制や運搬方法も相当大規模なものになるだろう、北国街道、宿場の当時の様子はどうなのか、沿道警備も厳重だったに違いない。そして、これらに携わる人々の様子は…佐渡から北国街道、中山道、実際の街道を歩き、宿場を訪ね、往時の大事業と人々の想いを偲ぶ「佐渡から江戸へ～御金荷の道～」と一緒に体験してみませんか。